

EU



## 1 農・畜産業の概況

2020年1月31日に英国がEUを離脱し、加盟国は27カ国となり、農地面積は国土全体の約4割となる1億5509万ヘクタールに減少し、農業経営体数は907万戸、1戸当たり農用地面積は17.1ヘクタールとなった（表1）。

21年の農業生産額は、4357億4153万ユーロであった。このうち畜産は、約4割に相当する1632億3

825万ユーロとなり、EU農業の主要部門となっている（図1）。畜産の内訳を見ると、生乳が580億2885万ユーロ（農業全体の13.3%）、牛肉が295億9987万ユーロ（同6.8%）、豚肉が358億8201万ユーロ（同8.2%）、卵・家きんが297億9562万ユーロ（同6.8%）となっている。

表1 主要農業経済指標

国名／区分	農用地面積	農業労働人口	農業経営体数	1戸当たり農用地面積	農業生産額
	(千ヘクタール)	(千人)	(千戸)	(ヘクタール)	(百万ユーロ)
	2020年	2020年	2020年	2020年	2021年
ベルギー	1,368.1	52.2	36.0	38.0	10,071.8
ブルガリア	4,564.2	181.6	132.7	34.4	5,429.6
チェコ	3,492.6	94.2	28.9	120.8	6,306.8
デンマーク	2,629.9	85.6	37.1	70.9	11,693.5
ドイツ	16,578.5	469.9	262.6	63.1	57,902.9
エストニア	975.3	16.6	11.4	85.8	1,096.6
アイルランド	4,499.0	155.0	130.2	34.6	10,106.9
ギリシャ	2,822.9	570.5	530.7	5.3	11,458.1
スペイン	23,913.7	827.5	914.9	26.1	56,498.6
フランス	27,364.6	670.9	393.0	69.6	80,896.9
クロアチア	1,231.5	160.4	143.9	8.6	2,684.9
イタリア	12,041.2	849.1	1,130.5	10.7	56,584.1
キプロス	134.1	20.3	34.1	3.9	771.9
ラトビア	1,969.0	66.8	69.0	28.5	1,626.6
リトアニア	2,914.6	112.9	132.1	22.1	3,359.2
ルクセンブルク	132.1	3.6	1.9	70.3	466.5
ハンガリー	4,921.7	242.5	232.1	21.2	9,389.3
マルタ	9.8	4.7	7.7	1.3	115.8
オランダ	1,817.9	151.2	52.6	34.5	29,550.2
オーストリア	2,602.7	120.7	110.8	23.5	8,085.8
ポーランド	14,749.2	1,392.4	1,301.5	11.3	28,245.0
ポルトガル	3,963.9	303.9	290.2	13.7	9,367.3
ルーマニア	12,762.8	1,143.7	2,887.1	4.4	19,658.2
スロベニア	483.4	71.1	72.5	6.7	1,321.2
スロバキア	1,862.7	41.8	19.6	94.9	2,351.5
フィンランド	2,281.7	55.6	45.6	50.0	3,928.0
スウェーデン	3,005.8	53.2	58.8	51.1	6,774.6
EU27カ国	155,093.0	7,917.7	9,067.3	17.1	435,741.5

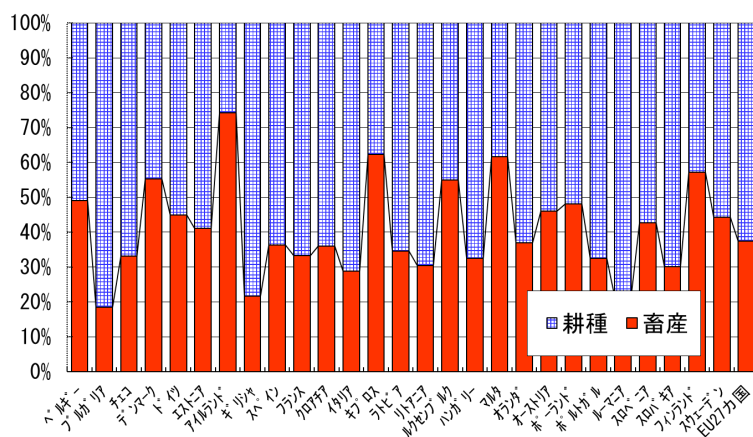
資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：EU27カ国の農用地面積、農業経営体数は、各国の数値の合計。

注2：1戸当たり農用地面積は、農用地面積および農業経営体数から算出。

注3：農業労働人口は、年単位で直接雇用された農業労働者の人口。

図1 農業生産額に占める畜産の割合（2021年）



## 2 畜産の動向

### (1) 酪農・乳業

2021年のEU（加盟27カ国）の生乳出荷量は、全世界の2割弱を占めている。

また、米国農務省（USDA）によると、21年の世界の乳製品貿易量に占めるEUの割合を見ると、チーズは48%と過半近くを占めた。14年8月からロシアが実施しているEU産農畜産物の禁輸措置により貿易量は減少したものの、16年以降は増加傾向で推移した。同じくバターは27%、脱脂粉乳は32%となった。

EUでは、15年3月末の生乳生産割当（クォータ）制度廃止を契機として生乳の増産傾向が続いていた中で、中国の需要が急速に弱まるとEU域内の乳製品需給は著しく緩和した。これに対して欧州委員会は、15～17年にかけて脱脂粉乳の公的買入を実施したほか、16～17年には生乳出荷削減奨励事業やEU域外への輸出拡大などを奨励し、需給の改善を図った。なお、公的買入による脱脂粉乳の在庫は、19年までにすべて売却された。

需給の改善に伴い19年から上昇傾向を見せていた生乳生産者価格は、20年に入ると新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により低下した。しかし、21年は中国などEU域外向けの乳製品輸出が好調な中で、EU全体の生乳生産量が前年同期並みであったことから、生乳生産者価格は一年を通じて上昇を継続した。

### ① 主要な政策

#### ア 乳製品の公的買入

EUは、バターおよび脱脂粉乳の公的買入を通じた価格支持により、間接的に生乳生産者価格を支持している。ただし、公的買入を行うための介入価格は、2003年の共通農業政策であるCAP改革<sup>(注)</sup>に基づき、段階的に引き下げられている。

品目別に見ると、バターは各年3月1日～9月30日の間、市場価格が介入価格（100キログラム当たり221.75ユーロ：参照価格の90%）を下回った場合、加盟国の介入機関を通じて一定規格のもの買い入れが検討される。なお、当該年の公的買入数量が限度数量の5万トンに達した場合は、入札により買い入れが実施できることとされている。

また、脱脂粉乳は各年3月1日～9月30日の間、市場価格が介入価格（100キログラム当たり169.80ユーロ）を下回った場合、加盟国の介入機関を通じて一定規格のもの買い入れが検討される。なお、当該年の公的買入数量が限度数量の10万9000トンに達した場合は、バターと同様に入札により買い入れが実施できることとされている。

脱脂粉乳の公的買入は15～17年にかけて行われ、その後、19年6月末までにすべての在庫が放出された。バターについては10年以降公的買入は行われていない。

（注）2003年のCAP改革では、介入価格が引き下げられた

代償に酪農分野では行われていなかった農家への直接支払いが導入された。なお、08年からは生産とは切り離れた単一の直接支払いとなっている。

イ 民間在庫補助（調整保管）

2014年以降の新たなCAPでは、バター、脱脂粉乳およびチーズを対象に、大幅な価格の下落など欧州委員会が必要と認めた場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助を行うことが決定された。

14～17年に民間在庫補助の対象となった品目は、脱脂粉乳約18万4000トン、バター約30万6000トンとなった。さらに、20年はCOVID-19対策として、3年ぶりに民間在庫補助が実施され、脱脂粉乳1万8300トン、バター6万3324トン、チーズ3万9184トンが対象とされた。

ウ 生乳生産割当（クォータ）制度

EUは、1984年以降、加盟国ごとに生乳生産量の枠（クォータ）を割り当て、クォータを超過した場合、一定額の課徴金を課すとともに、加盟国内の農家間での売買などを認める生産割当（クォータ）制度を実施してきた。

同制度は2008年11月に合意した「ヘルスチェック」（CAPの中間検証作業）に基づき、15年3月末で廃止され、生産者は需給に応じて生産できるようになった。

エ 輸出補助金

CAPの下で、例外的に輸出補助金の使用が認められているものの、2010年以降はすべての乳製品で輸出

補助金の発動はない。

オ 域内消費の促進

乳製品に関連した補助として、牛乳やチーズなどを対象に学校給食用消費などに対する補助が行われている。

② 生乳の生産動向

ア 酪農経営体数

EUの酪農経営体数は、景気の低迷や大規模化などを背景に小規模層を中心として減少傾向にあり、2013年は前回調査（2010年）から15%減少の146万戸となった（表2）。なお、14年以降は調査が行われていない。

表2 酪農経営体数、乳用経産牛飼養頭数および1戸当たり飼養頭数の推移

区分/年	2013	14	15	16	17	18	19	20	21	増減率
酪農経営体数	1463.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
経産牛飼養頭数	21,652	21,638	21,652	21,634	21,409	21,029	20,766	20,522	20,213	▲ 1.5
1戸当たり経産牛飼養頭数	14.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：経産牛飼養頭数は、各年12月末現在のもの。

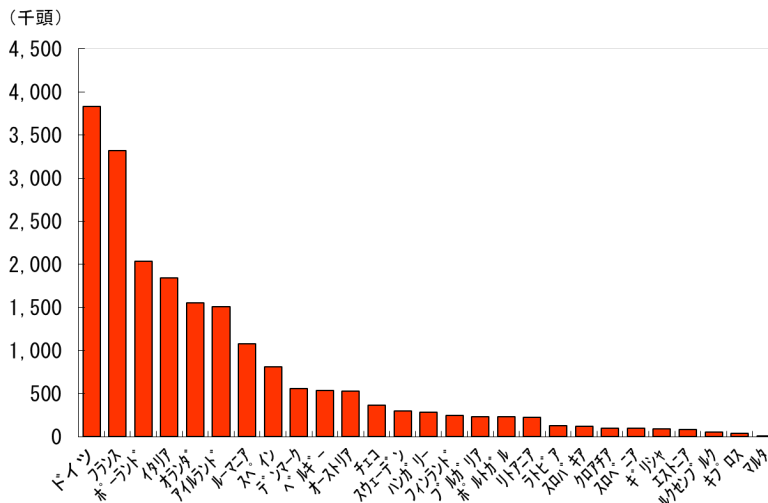
注2：酪農経営体数は、2014年以降公表されていない。

イ 飼養頭数

経産牛飼養頭数は、2016年以降、環境規制への対応から減少傾向にあり、21年は前年比1.5%減の2021万頭となった。

国別では頭数の多い順に、ドイツ383万頭、フランス332万頭、ポーランド204万頭、イタリア184万頭、オランダ155万頭、アイルランド151万頭となり、これら6カ国でEU全体の約7割を占めた（図2）。

図2 乳牛飼養頭数（2021年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」

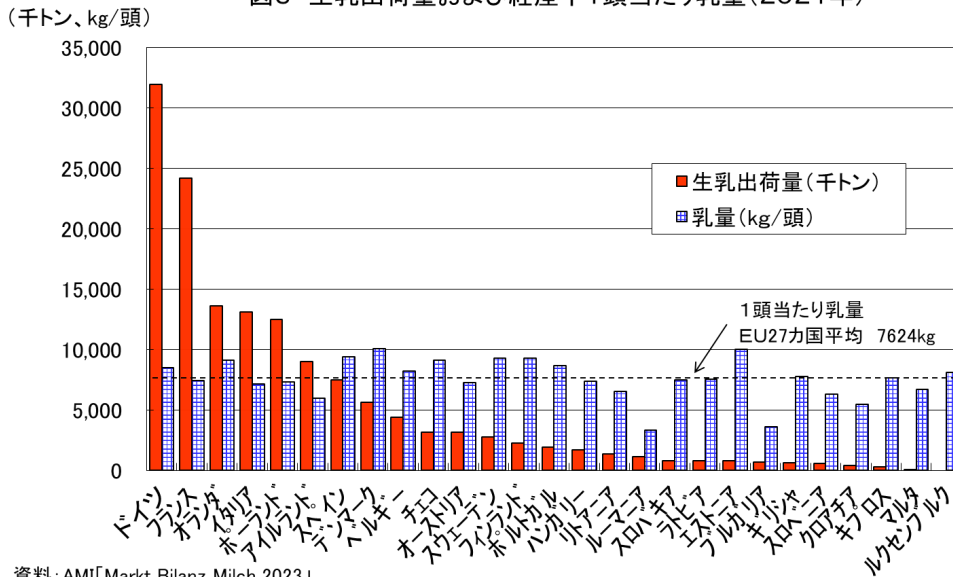
ウ 経産牛1頭当たり乳量

2021年の経産牛1頭当たり乳量は、7624キログラムとなった。ただし、第1位のデンマークが1万97キログラム、第2位のエストニアが1万20キログラムであるのに対し、下位のブルガリア、ルーマニアはそれぞれ3000キログラム台となっており、加盟国間での差は大きい（図3）。

エ 生乳出荷量

2021年の生乳出荷量は、1億4443万トンとなった。国別では出荷量の多い順に、ドイツ3194万トン、フランス2418万トン、オランダ1360万トン、イタリア1310万トン、ポーランド1248万トン、アイルランド902万トンとなり、これら6カ国でEU全体の生産量の約7割を占めた（図3）。

図3 生乳出荷量および経産牛1頭当たり乳量(2021年)



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

③ 牛乳・乳製品の需給動向

ア 飲用乳

2021年の飲用乳(乳飲料、ヨーグルトなどを含む。以下同じ)生産量(販売量)は2314万トンで、1人当たり飲用乳消費量は平均49.4キログラムとなった(表3)。

イ バター

2021年のEUのバター生産量(バターオイルを含む)は、221万トンと世界の生産量の約2割を占めた(表4)。主な生産国はドイツとフランスであり、この2カ国でEU全体の約4割を占めた(図4)。

21年のEU域外輸出量は、26万トンとなり、輸出先別に見ると、EUから離脱した英国向けが最も多く、米国、中国、サウジアラビアと続いた。

表3 1人当たり年間飲用乳消費量の推移

(単位：kg/人、%)

国/年	2017	18	19	20	21	増減率
ベルギー	46.9	45.3	42.0	45.8	43.4	▲5.2
ブルガリア	17.7	17.3	17.4	18.5	-	-
チェコ	61.1	59.4	59.7	58.5	57.7	▲1.4
デンマーク	83.6	82.1	77.0	78.4	74.2	▲5.4
ドイツ	52.2	51.4	49.5	50.0	47.0	▲6.0
ギリシャ	45.6	46.2	47.2	44.2	-	-
エストニア	66.9	65.4	66.6	66.2	64.9	▲2.0
スペイン	68.3	68.5	69.5	72.2	68.1	▲5.7
フランス	47.5	38.9	45.8	43.9	41.2	▲6.2
アイルランド	116.6	114.7	112.2	109.4	104.6	▲4.4
イタリア	46.5	40.0	43.3	43.7	45.8	▲4.8
クロアチア	71.7	73.8	74.2	70.8	-	-
ラトビア	45.0	42.0	43.4	41.2	40.0	▲2.9
リトアニア	36.3	40.9	37.1	42.2	39.8	▲5.7
ハンガリー	54.1	52.2	54.9	57.8	54.6	▲5.5
オランダ	42.2	41.5	39.7	44.4	45.2	▲1.8
オーストリア	76.0	76.0	74.4	75.1	70.1	▲6.7
ポーランド	40.0	46.9	49.2	51.6	51.1	▲1.0
ポルトガル	66.8	69.8	62.6	65.6	-	-
ルーマニア	16.7	17.1	18.2	19.5	-	-
スロバキア	46.3	45.9	45.4	50.0	47.7	▲4.6
フィンランド	114.2	109.1	103.8	99.6	98.4	▲1.2
スウェーデン	76.7	72.7	68.6	67.6	65.5	▲3.1
英国	104.7	102.0	96.8	95.6	94.0	▲1.7
EU平均	59.0	57.9	56.2	51.4	49.4	▲3.9

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注1：2021年は暫定値。

注2：EU平均は、2019年までは英国を含む28カ国、20年以降は英国を除く27カ国の平均消費量。

表4 バター需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2018	19	20	21	増減率
生産量	2,340	2,410	2,256	2,210	▲ 2.0
うち乳業工場	2,320	2,390	2,235	2,187	▲ 2.1
農家	20	20	22	23	4.5
輸入量	20	14	48	46	▲ 4.2
輸出量	158	215	312	262	▲ 16.0
在庫量(12月末)	120	105	135	135	0.0
域内消費量	2,188	2,224	1,992	1,994	0.1

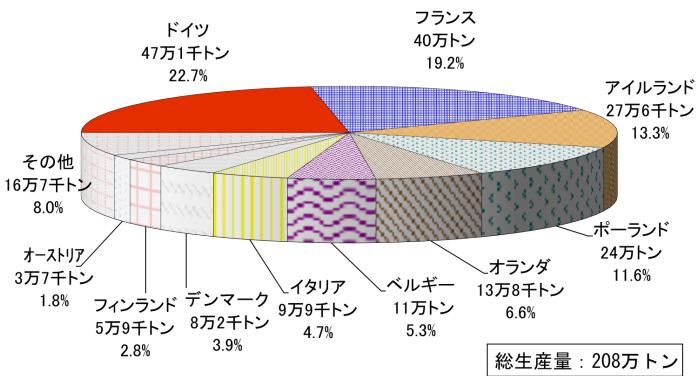
資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注1：生産量にはバターオイルを含む。

注2：2021年は暫定値。

注3：2019年までは英国を含む28カ国、20年以降は英国を除く27カ国。

図4 バターの国別生産量(2021年)



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注：EU27カ国。

21年のバター消費量は199万トンとなり、1人当たり消費量は4.5キログラムとなった(表4、5)。国別ではフランス(8.2キログラム)、デンマーク(7.4キログラム)、ドイツ(6.1キログラム)と消費が多い一方、オリーブ油など植物油の消費が多いイタリア(2.7キログラム)、スペイン(0.4キログラム)などは少ない。

表5 1人当たりバター消費量の推移

(単位：kg/人/年、%)

国/年	2017	18	19	20	21	増減率
ベルギー	2.2	2.1	2.1	1.8	1.7	▲ 5.6
ブルガリア	1.0	1.0	1.1	1.3	-	-
チェコ	5.0	5.1	5.4	5.8	5.4	▲ 6.9
デンマーク	6.2	6.7	6.9	6.8	7.4	8.8
ドイツ	6.0	5.8	5.8	6.3	6.1	▲ 3.2
ギリシャ	0.9	0.9	1.0	1.0	-	-
エストニア	2.7	3.3	3.3	3.7	3.3	▲ 10.8
スペイン	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4	0.0
フランス	8.0	8.3	8.2	8.2	8.2	0.0
アイルランド	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	0.0
イタリア	2.5	2.5	2.5	2.5	2.7	8.0
クロアチア	1.6	1.3	1.6	1.4	-	-
ラトビア	2.8	3.0	3.5	3.8	3.9	2.6
リトアニア	4.1	4.1	4.9	5.7	5.8	1.8
ハンガリー	2.5	2.4	2.4	2.6	2.6	0.0
オランダ	4.0	5.2	2.8	1.8	2.3	27.8
オーストリア	5.4	5.5	5.6	5.3	5.4	1.9
ポーランド	4.4	4.6	5.2	5.5	5.8	5.5
ポルトガル	2.1	2.2	2.1	2.3	-	-
ルーマニア	1.1	1.1	1.2	1.3	-	-
スロバキア	3.7	3.4	3.1	4.0	4.0	0.0
フィンランド	3.4	3.5	3.3	3.3	3.0	▲ 9.1
スウェーデン	2.8	2.8	2.9	2.9	2.9	0.0
英国	3.0	2.4	3.0	-	-	-
<b>EU27/28カ国</b>	<b>4.2</b>	<b>4.3</b>	<b>4.3</b>	<b>4.5</b>	<b>4.5</b>	<b>0.0</b>

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注1：2021年は暫定値。

注2：2019年までは英国を含む28カ国、20年以降は英国を除く27カ国。

ウ 脱脂粉乳

2021年のEUの脱脂粉乳生産量は、152万トンと世界の生産量の約3割を占めた(表6)。主な生産国はフランスとドイツであり、この2カ国でEU全体の約5割を占めた(図5)。また、域内の消費量は79万トンであった。

脱脂粉乳については、低迷した需給の改善を目的に15年7月~17年9月に行われた公的買入により、介入在庫が17年末に約38万トンまで積み上がった。その後、需給の改善に伴い16年12月から在庫の売り渡しが始まり、19年6月には在庫量はゼロとなった。

脱脂粉乳価格は、COVID-19の影響から20年後半に若干の回復をみせた後、EU域内外の堅調な需要にけん引される形で21年末には前年を大幅に上回った。ただし、価格が米国産やオセアニア産と比較し高い水準になったことで国際競争力が弱まり、21年のEU域外への輸出量は79万トンと前年をやや下回った。主な輸出先は、中国、アルジェリア、インドネシア、フィリピン、ナイジェリアなどとなった。

表6 脱脂粉乳需給の推移

(単位：千トン、%)

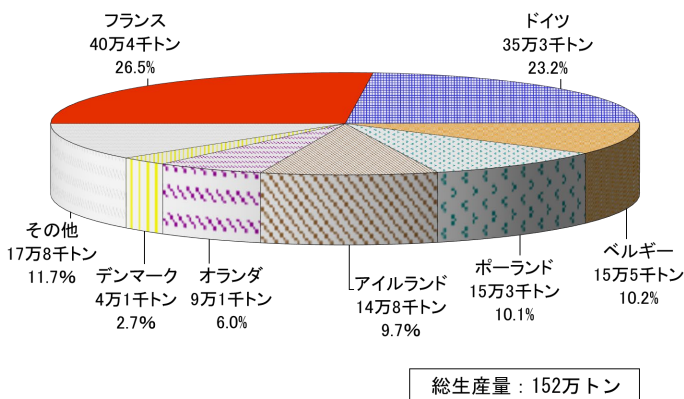
区分/年	2018	19	20	21	増減率
生産量	1,669	1,668	1,621	1,522	▲ 6.1
輸入量	3	6	36	32	▲ 11.1
輸出量	816	962	831	788	▲ 5.2
介入在庫量 (12月末)	175	0	0	0	-
域内消費量	993	936	826	786	▲ 4.8

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注1：2021年は暫定値。

注2：2019年までは英国を含む28カ国、20年以降は英国を除く27カ国。

図5 脱脂粉乳の国別生産量（2021年）



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注：EU27カ国。

エ チーズ

2021年のEUのチーズ生産量は1099万トンと、世界の生産量の約5割を占めた（表7）。主な生産国はドイツとフランスであり、この2カ国でEU全体の約4割を占めた（図6）。

表7 チーズ需給の推移

(単位：千トン、%)

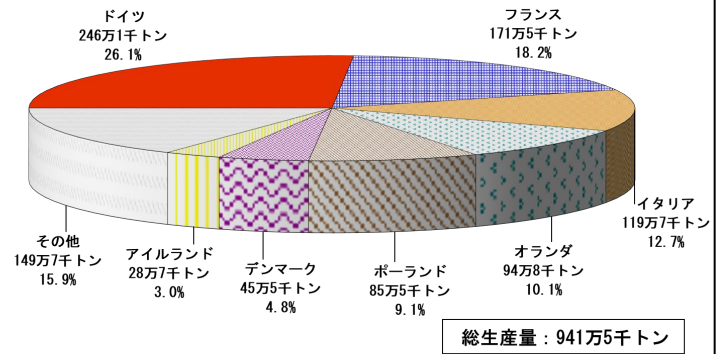
区分/年	2018	19	20	21	増減率
生産量	11,068	11,112	10,794	10,986	1.8
うち乳業工場(生乳原料)	9,556	9,568	9,254	9,415	1.7
農家(生乳原料)	599	628	623	603	▲ 3.2
その他(生乳原料)	913	916	917	968	5.6
輸入量	59	63	223	196	▲ 12.1
輸出量	836	882	1,402	1,385	▲ 1.2
域内消費量	10,682	10,686	9,982	10,199	2.2
1人当たり消費量 (kg)	20.8	20.8	22.3	22.8	2.2

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注1：2021年は暫定値。

注2：2019年までは英国を含む28カ国、20年以降は英国を除く27カ国。

図6 チーズの国別生産量（2021年）



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

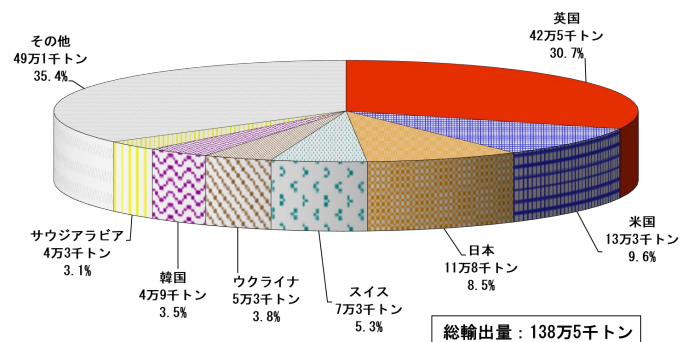
注1：EU27カ国。

注2：生産量のうち乳業工場生産分。

21年のEU域外輸出量は139万トンとなり、主な輸出先は英国(42.5万トン)、米国(13.3万トン)、日本(11.8万トン)、スイス(7.3万トン)であった(図7)。20年は、米国との航空機に対する補助金をめぐる貿易摩擦の影響から米国向け輸出量は減少したが、21年はこの問題が解消され、米国向け輸出量は例年水準に回復した。一方で、英国や日本向けは前年をかなりの程度下回った。

チーズの消費量は増加傾向にあり、21年は1020万トン、1人当たり消費量は22.8キログラムとなった。しかし、加盟国間でかなりの差があり、フランス(27.6キログラム)、フィンランド(25.8キログラム)などで多い一方、アイルランド(6.8キログラム)、スペイン(7.6キログラム)などでは少ない(表8)。

図7 チーズの輸出先国（2021年）



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注：EU27カ国。

表8 1人当たりチーズ消費量の推移

(単位：kg/人/年、%)

国/年	2017	18	19	20	21	増減率
ベルギー	14.6	14.2	14.8	15.5	14.9	▲ 3.9
ブルガリア	15.5	16.0	16.6	16.4	-	-
チェコ	17.8	17.8	18.8	19.4	19.4	0.0
ドイツ	23.9	24.4	25.1	25.3	25.3	0.0
ギリシャ	25.7	26.9	24.2	24.3	-	-
エストニア	25.4	25.0	25.3	24.6	25.6	4.1
スペイン	7.5	7.6	7.5	8.6	7.6	▲ 11.6
フランス	26.5	26.5	25.1	25.7	27.6	7.4
アイルランド	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	0.0
イタリア	22.3	23.3	20.2	19.5	20.1	3.1
クロアチア	13.1	12.6	14.4	13.4	-	-
ラトビア	20.8	20.8	21.0	21.5	22.1	2.8
リトアニア	20.6	20.8	21.8	22.5	23.9	6.2
ハンガリー	13.5	13.3	13.2	13.8	13.7	▲ 0.7
オランダ	22.0	24.3	25.5	26.7	24.7	▲ 7.5
オーストリア	22.3	22.8	23.3	23.9	23.2	▲ 2.9
ポーランド	18.9	19.1	18.2	18.4	18.8	2.2
ポルトガル	12.0	12.8	13.2	12.7	-	-
ルーマニア	7.7	8.5	8.6	9.2	-	-
スロベニア	15.3	15.6	16.1	16.0	-	-
スロバキア	13.5	13.3	14.6	14.7	15.9	8.2
フィンランド	25.9	25.7	25.6	25.5	25.8	1.2
スウェーデン	19.2	19.4	19.1	19.7	19.4	▲ 1.5
英国	11.7	12.0	12.0	-	-	-
EU27/28カ国	20.6	20.7	20.8	22.3	22.8	2.2

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注1：2021年は暫定値。

注2：2019年までは英国を含む28カ国、20年以降は英国を除く27カ国。

#### ④ 生乳および牛乳・乳製品の価格動向

##### ア 生乳生産者価格

生乳生産者価格は、2013年末をピークに、その後の需給の緩和から下落した。しかし、需給の改善などから17年以降は堅調に推移し、21年は前年比7.8%高の100キログラム当たり36.81ユーロに上昇した(表9)。

表9 生乳生産者価格の推移

(単位：ユーロ/100kg、%)

国/年	2017	18	19	20	21	変動率
ベルギー	35.05	32.19	33.05	31.30	36.46	16.5
ブルガリア	30.41	29.94	30.42	31.56	33.40	5.8
チェコ	31.46	32.32	33.39	32.24	35.18	9.1
デンマーク	36.90	35.96	34.18	34.82	37.50	7.7
ドイツ	36.19	34.37	33.70	32.84	36.27	10.4
エストニア	32.67	30.72	31.00	29.33	31.64	7.9
ギリシャ	38.79	39.62	38.37	38.65	39.47	2.1
スペイン	30.96	31.23	31.85	32.21	33.26	3.3
フランス	32.42	32.81	34.06	33.73	35.26	4.5
アイルランド	33.62	31.56	29.83	30.02	34.58	15.2
イタリア	37.40	36.23	39.39	36.02	37.16	3.2
クロアチア	34.08	33.82	31.12	32.70	34.58	5.7
キプロス	55.88	55.97	57.63	57.86	57.97	0.2
ラトビア	30.58	28.33	29.32	28.24	31.84	12.7
リトアニア	25.22	24.01	24.15	24.10	27.60	14.5
ハンガリー	30.26	29.53	30.53	29.45	30.98	5.2
オランダ	35.50	33.60	33.26	31.36	34.19	9.0
オーストリア	35.98	35.41	35.34	35.96	37.89	5.4
ポーランド	31.67	30.60	30.54	30.15	33.46	11.0
ポルトガル	29.68	30.75	30.65	30.27	30.42	0.5
ルーマニア	26.63	26.36	27.48	28.17	28.82	2.3
スロベニア	30.32	30.30	32.62	31.40	32.53	3.6
スロバキア	30.68	31.53	32.11	32.02	32.50	1.5
フィンランド	37.72	37.92	38.33	38.81	39.24	1.1
スウェーデン	37.94	34.64	34.82	35.31	39.06	10.6
英国	31.80	32.13	31.93	-	-	-
EU27/28カ国	34.15	33.25	33.45	34.15	36.81	7.8

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注1：3.7%脂肪分のもの。ただしドイツは4.0%脂肪分のもの。

注2：2019年までは英国を含む28カ国、20年以降は英国を除く27カ国。

##### イ 飲用乳小売価格

EU最大の生乳出荷国であるドイツを見ると、全脂乳(乳脂肪3.5%以上)の小売価格は、1リットル当たり1.19ユーロ(前年比2.6%高)であった(表10)。

表10 ドイツの飲用生乳小売価格の推移

(単位：ユーロ/リットル、%)

区分/年	2017	18	19	20	21	変動率
全脂乳 (乳脂肪1.6%~3.5%)	0.75	0.80	0.80	0.84	0.89	6.0
全脂乳 (乳脂肪3.5%以上)	1.09	1.11	1.14	1.16	1.19	2.6
UHT牛乳 (乳脂肪1.5%以下)	0.68	0.70	0.70	0.75	0.79	5.3

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020~2023」

##### ウ バター卸売価格

2021年のバター卸売価格(工場または倉庫渡し)は、20年末にCOVID-19感染拡大前の水準に回復した後、EU域内外からの堅調な需要にけん引される形で21年末には前年を大幅に上回った(表11)。

表11 主要国のバター卸売価格の推移

(単位：ユーロ/kg、%)

国/年	2017	18	19	20	21	変動率
フランス	5.26	5.13	3.93	3.31	4.40	32.9
ドイツ	5.27	5.14	3.91	3.35	4.23	26.3
オランダ	5.22	4.99	3.81	3.26	4.23	29.8
イタリア	5.01	4.78	3.61	3.16	4.06	28.5
ベルギー	5.23	5.05	3.85	3.32	4.32	30.1

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注：工場または倉庫渡しの価格で付加価値税は含まない。

エ 脱脂粉乳卸売価格

2021年の脱脂粉乳卸売価格（工場渡し）は、EU域内外の堅調な需要にけん引される形で前年を大幅に上回った（表12）。

表12 主要国の脱脂粉乳卸売価格の推移

(単位：ユーロ/kg、%)

国/年	2017	18	19	20	21	変動率
ドイツ	1.66	1.31	1.95	2.07	2.57	24.2
フランス	1.75	1.52	2.16	2.22	2.64	18.9
オランダ	1.75	1.49	2.14	2.20	2.64	20.0
ベルギー	1.78	1.53	2.17	2.26	2.67	18.1

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注：工場渡しの価格で付加価値税は含まない。

オ チーズ卸売価格

2021年のチーズ卸売価格（工場渡し）は、国・区分ごとに異なるが、ドイツ、イタリア、ポーランドの指標となるチーズ価格はいずれも前年を上回った（表13）。

表13 主要国のチーズ卸売価格の推移

(単位：ユーロ/kg、%)

国・区分/年	2017	18	19	20	21	変動率
ドイツ エメンタール45%	5.75	5.72	5.88	5.95	5.98	0.5
ベルギー チェダー	3.47	3.25	3.25	3.12	-	-
イタリア グラナ・パダーノ	7.82	7.20	8.50	8.28	8.49	2.5
ポーランド エメンタール	3.75	3.46	3.54	3.51	3.72	6.0

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2023」

注1：工場渡しの価格で付加価値税は含まない。

注2：2021年のベルギーの価格はデータなし。

(2) 肉牛・牛肉産業

2021年のEU（加盟27カ国）の牛肉生産量は、世界の生産量の約1割を占めた。EUは気候・地理などに応じて、在来種を含む多種多様な品種の牛（肉用種、乳用種、乳肉兼用種）が飼養されており、牛肉の生産構

造や牛肉に供する牛（子牛、経産牛、去勢牛、雄牛など）は、国によってかなり異なっている。EUの牛肉自給率を見ると、01年には103%であったが、同年のBSE問題の再燃などにより生産量が減少傾向となり、03年以降は牛肉の純輸入地域となった。その後も13年にアイルランドで発覚した牛肉加工製品への馬肉混入事件の影響などで消費者離れなどがあったが、BSE対策の徹底などによる輸出量の増加などから、2011年以降、自給率は100%を超えて推移している（表14）。

21年の牛肉生産量は、飼料価格の上昇による早期出荷が増えたことで、1頭当たりの枝肉重量減少から前年比0.3%減となった。

表14 牛肉需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2017	18	19	20	21	増減率
生産量	6,948	7,067	6,964	6,903	6,883	▲ 0.3
輸入量	348	371	387	306	285	▲ 7.1
輸出量	613	595	577	593	567	▲ 4.3
消費量	6,683	6,844	6,774	6,617	6,600	▲ 0.3
1人当たり消費量 (kg)	10.5	10.7	10.6	10.4	10.3	▲ 1.0
自給率 (%)	107.6	106.8	106.2	107.8	107.6	▲ 0.2 ポイント

資料：欧州委員会「EU agricultural markets short-term outlook - autumn 2023」

注1：枝肉換算ベース。1人当たり消費量は純食料ベース。

注2：輸入量および輸出量は生体牛を除く。

注3：自給率は、と畜牛の枝肉生産量から枝肉換算した生体牛の輸出入量を差し引きして算出した生産量と、消費量から算定。

注4：EU27カ国

① 主な政策

ア 公的買入

2014年以降の新たなCAPでは、一加盟国または一加盟国の一部地域の市場のR3（肉付きおよび脂肪量ともに中位の格付け）雄牛の枝肉平均価格が、1トン当たり1890ユーロ（枝肉参考価格の85%）の介入価格を下回った場合、公的買入が検討される。ただし、これまで公的買入は行われていない。

イ 民間在庫補助（調整保管）

EUでは、R3の枝肉参考価格を1トン当たり2224ユーロと定め、EU平均市場価格がこの参考価格を下回り、それが継続する可能性がある場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助を行うことが検討される。2020年には、COVID-19対策として、牛肉に対し民間在庫補助が実施され、外食産業の営業規制により特に需要が低下したヒレやサーロインを含む月齢8カ月以上の枝肉の後部である後四



分体（生鮮または冷蔵）を対象に発動した。なお、21年は実施されていない。

ウ 直接支払い

2003年のCAP改革により、生産にリンクした直接支払いは原則廃止されたが、加盟国単位で、生産維持を目的に生産とリンクした直接支払いを実施することは可能とされている。

エ 輸出補助金

CAPの下で、例外的に輸出補助金の使用が認められているものの、近年、牛肉での輸出補助金の発動は行われていない。

オ BSE関連対策

動物性タンパク質の飼料利用の禁止、食肉に供される牛からの特定危険部位の除去などの、各種のBSE対策が実施されている。また、講じられる対策の有効性を検証するため、BSEモニタリング検査などが実施されている。

② 肉牛の生産動向

ア 牛飼養経営体数

EUの牛飼養経営体数（乳用種を含む）は、大規模化などを背景に小規模層を中心に減少傾向にあり、2013年は前回調査（2010年）から13%減少の220万戸となった（表15）。なお、14年以降調査は行われていない。

表15 牛（乳用種を含む）飼養経営体数、飼養頭数および1戸当たりの飼養頭数の推移

(単位：千戸、千頭、頭/戸、%)

区分/年	2013	14	15	16	17	18	19	20	21	増減率
牛飼養経営体数	2,195	-	-	-	-	-	-	-	-	-
飼養頭数	78,019	78,690	79,303	79,698	79,010	77,840	77,161	76,551	75,705	▲ 2.7
1戸当たり飼養頭数	35.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料：欧州委員会「Eurostat」

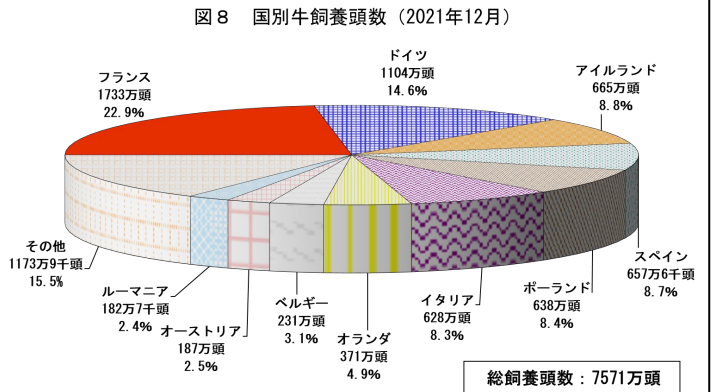
注1：飼養頭数は、12月末時点のもの。

注2：牛飼養経営体数は、2014年以降公表されていない。

イ 飼養頭数

2021年12月時点の牛飼養頭数（乳用種を含む）は、前年比2.7%減の7571万頭であった（表15）。飼養頭数第1位はフランス（1733万頭）、2位はドイツ（1104万頭）であり、この2カ国でEU全体の約4割を占める。第3位はアイルランド（665万頭）となったが4位以下スペイン、ポーランド、イタリアとは僅差である（図8）。種類別の牛飼養割合などは、加盟国間で違いがある（図9）。

図8 国別牛飼養頭数（2021年12月）



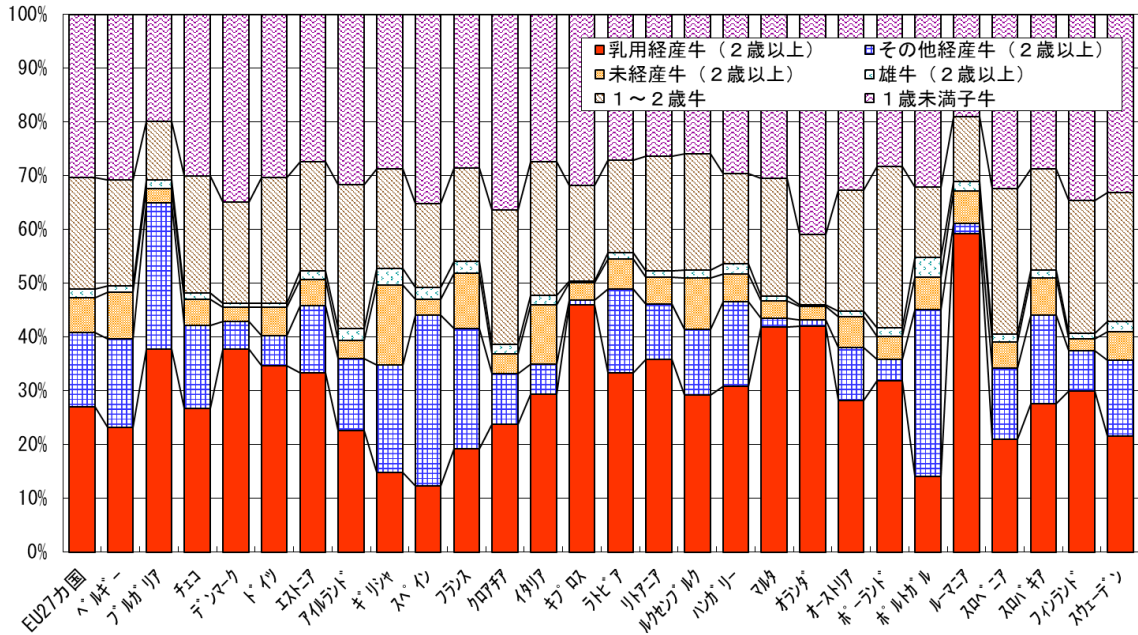
資料：欧州委員会「Eurostat」

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：EU27カ国。

図9 国別種類別牛飼養割合（2021年12月）

図9 国別種類別牛飼養割合（2020年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」

資料：欧州委員会「Eurostat」

### ③ 牛肉の需給動向

#### ア 牛肉生産量

2021年は、COVID-19の規制緩和による外食産業の需要回復などが見られたものの、飼料価格の上昇から早期出荷が増加したことで、1頭当たりの枝肉重量が減少した。このため、同年の牛肉生産量は688万トン（前年比0.3%減）（枝肉換算）となった（表14）。

#### イ 輸入および輸出

輸入は、ガット・ウルグアイラウンド合意に基づき、さまざまな関税割当や近隣国との特惠制度が設けられている。2021年のEU域外からの輸入量は、世界的に牛肉需給がひっ迫したことなどから、前年比7.1%減の29万トン（枝肉換算）となった（表14）。主な輸入先は、英国、ブラジル、アルゼンチンなどである。

輸出は、01年のBSE問題や02年の口蹄疫の発生により、一時的にEU産牛肉の禁輸措置が講じられたことで長年にわたり減少傾向で推移してきた。また、14年に、最大の輸出先であったロシアによるEU産農畜産物の禁輸措置が講じられたことで伸び悩んでいたが、近年は、アジアや中東、北アフリカ向け輸出が増加した。なお、21年は最大の輸出先である英国向けの輸出が減少したことで、前年比4.3%減の57万トンとなった（表14）。

#### ウ 消費

2021年の消費量は、COVID-19後の需要回復と供給不足により牛肉価格が高値で推移したことから、前年比0.3%減の660万トンと減少した。1人当たり消費量も同様の傾向となり、21年は同1.0%減の10.3キログラムとなった（表14）。

### ④ 肉牛・牛肉の価格動向

2021年の牛枝肉卸売価格は、外食需要が回復する中、生産量および輸入量が低迷したことから、年間を通じて価格は一貫して上昇し、100キログラム当たり雄牛で386.9ユーロ、去勢牛で405.4ユーロとなった（表16）。

表16 牛枝肉卸売価格の推移

（単位：ユーロ/100kg、%）

年/区分	牛枝肉卸売価格			
	雄牛		去勢牛	
	価格	変動率	価格	変動率
2017	376.4	3.3	402.9	1.1
18	376.5	0.0	402.2	▲0.2
19	362.6	▲3.7	377.4	▲6.1
20	354.6	-	366.7	-
21	386.9	9.1	405.4	10.6

資料：欧州委員会「Meat market observatory」

注：2019年まではEU27カ国+英国、2020年からは英国を除くEU27カ国。

### (3) 養豚・豚肉産業

EUの豚肉自給率は120%を超えて推移しており、世界の豚肉生産量の約2割(2021年)を占める純輸出地域である。中でも、わが国の冷凍豚肉の主要な輸入先であるスペインは、EU全体の輸出量の3割以上を占める。EUでは、加盟国間で差があるものの、全体的に見ると食肉消費量に占める豚肉の割合は牛肉、鶏肉、羊肉の中で最も大きい。

EUの豚肉生産は、07年、12年の飼料価格高騰などの影響を受け、増産と減産を繰り返している。11年および12年は、13年のアニマルウェルフェアに関する規制の完全施行に対応するため、一時的に生産は減少したが、14年以降は、生産性の向上が図られたことで、増加傾向となっている。この規制の内容は、妊娠豚のストール飼いの禁止、繁殖母豚の飼養面積の拡張のための豚舎の増改築など、各種対応を必要とするものであった。これにより、対応できない小規模農家では経営の中止や、繁殖、肥育の分業化、統廃合などが行われたりするなど、業界全体で生産構造の変化の動きが活発になった。

#### ① 主要な政策

##### ア 民間在庫補助(調整保管)

EUでは、標準的な豚(クラスEまたはR)の枝肉参考価格を1トン当たり1509.39ユーロと定め、EU平均市場価格が参考価格を下回り、それが継続する可能性がある場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助を行うことが検討される。

2015年3月には、前年1月のロシアによるEU産農畜産物の禁輸措置に伴い需給が緩和したことから、民間在庫補助が実施され、約6万トンの豚肉が市場から隔離された。また、16年1月には、14年から続くロシアによるEU産農畜産物の禁輸措置の影響やEU域内の生産増などによる需給緩和により約9万トンの豚肉が隔離された。なお、21年は実施されていない。

##### イ 輸出補助金

CAPの下で、例外的に輸出補助金の使用が認められているものの、2008年以降は、輸出補助金の発動はない。

### ② 肉豚の生産動向

#### ア 養豚経営体数

EUの養豚経営体数は、飼料価格の高騰、アニマルウェルフェアの規制強化などさまざまな要因を背景として小規模層を中心に減少し、大規模化や繁殖・肥育の分業化が進む傾向にある。2013年は、前回調査(10年)から24%減少となる218万戸となった。なお、14年以降の調査は実施されていない(表17)。

小規模農家を中心となっている国で養豚経営体数が多い。

表17 養豚経営体数、飼養頭数および1戸当たり飼養頭数の推移

区分/年	2013	14	15	16	17	18	19	20	21	増減率
養豚経営体数	2,181	-	-	-	-	-	-	-	-	-
飼養頭数	141,859	143,821	144,324	142,650	145,544	143,519	143,146	145,911	141,681	▲1.0
1戸当たり飼養頭数	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：飼養頭数は、12月末時点のもの。

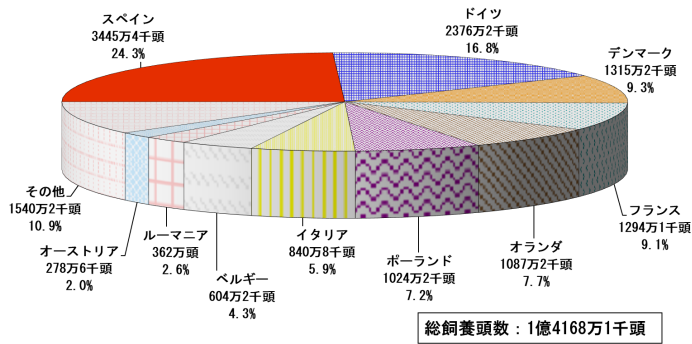
注2：養豚経営体数は、2014年以降公表されていない。

#### イ 飼養頭数

2021年12月時点の豚飼養頭数は、1億4168万頭となった(表17)。

飼養頭数は、EU全土に分布しているものの加盟国間で大きな差があり、スペイン、ドイツ、デンマーク、フランス、オランダ、ポーランド、イタリアの7カ国でEU全体の約8割を占めている(図10)。中でもスペインとドイツの上位2カ国で、総飼養頭数の約4割を占める。首位のスペインは9年連続で増加傾向にある一方、2位のドイツは野生イノシシでアフリカ豚熱の発生が確認されたことで、主要輸出先であった中国向けの停止などから、減少傾向で推移している。

図10 国別豚飼養頭数（2021年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」  
注：EU27カ国。

### ③ 豚肉の需給動向

#### ア 豚肉生産量

2021年の豚肉生産量は、上半期の輸出需要などを  
受け、前年比1.7%増の2362万トン（枝肉換算）  
となった（表18）。主要生産国別に見ると、スペイン、  
デンマーク、フランス、オランダ、ポーランド、イタリ  
アで増産となった一方、ドイツでは減産となった。

表18 豚肉需給の推移

（単位：千トン、%）

区分/年	2017	18	19	20	21	増減率
生産量	22,757	23,156	22,996	23,220	23,616	1.7
輸入量	154	167	162	159	97	▲38.9
輸出量	3,498	3,580	4,177	4,943	4,752	▲3.9
消費量	19,414	19,743	18,981	18,436	18,962	2.8
1人当たり消費量(kg)	34.0	34.5	33.1	32.2	33.1	2.8
自給率(%)	117.4	117.5	121.4	126.1	124.8	▲1.0ポイント

資料：欧州委員会「EU agricultural markets short-term outlook autumn 2023」

注1：枝肉換算ベース。1人当たり消費量は純食料ベース。

注2：生産量は加工などに伴う損耗を考慮した数値。

注3：自給率は、と畜豚の枝肉生産量から枝肉換算した生体豚の輸出  
入量を差し引きして算出した生産量と、消費量から算定。

注4：EU27カ国。

#### イ 輸入および輸出

2020年のEU域外への輸出量（枝肉換算）は、E  
U域内の処理場の従業員がCOVID-19に感染した  
ことで中国向け輸出が一時停止になったものの、同国か  
らの需要が引き続き強かったことで、前年比18.3%  
増の494万トンとなった。21年の輸出量は、中国が  
アフリカ豚熱による飼養頭数減から生産能力が回復した  
ため、同国向けの減少から前年比3.9%減の475万  
トンとなった（表18）。主な輸出先は、中国、英国、

日本、韓国向けなどであり、中国のみで全体の4割を超  
えた。また、主な輸出国は最大のスペイン、次いでデン  
マーク、オランダとなり、これら上位3カ国で輸出量の  
全体の7割を占める。その他の主要輸出国のうち、ドイ  
ツは、アフリカ豚熱が確認されたことで、中国をはじめ  
主な輸出先がドイツからの豚肉の輸入を停止したため、  
20年から半減した。

なお、21年のEU域外からの輸入量（枝肉換算）は、  
EU産豚肉の中国向けの輸出が減少したことにより、域  
内の在庫が増えたことで、主な輸入先である英国からの  
輸入が大幅に減少し、前年比38.9%減の10万トン  
となった。

#### ウ 消費

2021年の消費量は、価格の低下と外食需要の回復  
により、前年比2.8%増の1896万トンとなった。

1人当たり消費量も同様に、同2.8%増の33.1キ  
ログラムとなった。

### ④ 豚肉の価格動向（豚肉の市場価格）

豚枝肉卸売価格は、加盟国の代表的な市場の加重平均  
価格をベースとして算出される。

2021年の枝肉卸売価格は、100キログラム当  
り143.0ユーロと前年比10.7%安となった（表19）。  
COVID-19に関する規制緩和に伴う外食需要などの  
回復もあり、21年上半年期の同価格は上昇基調にあつたも  
の、中国向け輸出量の大幅な減少から域内需給が緩んだ  
ことなどにより、下半期は下落傾向となった。

表19 豚枝肉卸売価格の推移

（単位：ユーロ/100kg、%）

年/区分	豚枝肉卸売価格					
	EU		ドイツ		デンマーク	
	変動率		変動率		変動率	
2016	146.0	4.6	151.8	6.5	136.8	5.1
17	160.7	10.1	165.9	9.3	148.7	8.7
18	142.0	▲11.6	146.0	▲12.0	128.0	▲13.9
19	169.1	19.0	177.5	21.6	164.4	28.4
20	160.1	-	162.7	-	172.6	-
21	143.0	▲10.7	139.9	▲14.0	147.3	▲14.6

資料：欧州委員会「Meat Market Observatory」

注：2019年まではEU27カ国+英国、2020年からは英国を除くEU27  
カ国。